

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名	BAO Zhenshan
学位	博士（経済学）
学位記番号	新大院博（経）第62号
学位授与の日付	平成28年9月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
博士論文名	中国・青島市における小売業の展開に関する実証研究

論文審査委員	主査教授	菅原 陽心
	副査准教授	溝口 由己
	副査准教授	巖 成男

博士論文の要旨

BAO Zhenshan の論文「中国・青島市における小売業の展開に関する実証研究」は、流通業の改革を先導した青島市の小売業を取り上げ、流通業においても開放政策による外資の導入が現地の流通業に大きなインパクトを与え、近代化が進行した過程を分析したものである。流通業は製造業より遅れて近代化が進んだが、その分変化も激しいものであると同時に、その展開も多様な様相を示すことになるが、本論文では、これを、いち早く青島市に進出し、成功した外資企業、それに刺激を受け、自己改革をし、発展した国内企業、青島市に進出したものの業績が上がらず撤退した企業を取り上げ、これらの企業の分析を踏まえ、青島市小売業の発展を実証的に示している。

本論文の構成は以下のようにになっている。

序論

第1章 青島市における小売業の発展

第2章 青島市における外資系小売業の進出

第3章 青島市における外資系小売企業の展開——イオンの成功事例を中心に——

第4章 青島市における現地小売企業の成長と競争力——利群集団の事例として——

第5章 青島市における小売市場の進化——テスコの撤退事例が示すもの——

第6章 青島市における小売業の近代化

結章 結論と今後の課題

序章では、本論文の研究課題とその背景を示した後、先行研究を整理し、本論文で参照すべき理論モデルを明確にし、最後に本論文の構成を、その概要と共に示している。

第1章では、先ず、本論文の実証研究地域である青島市を取り上げる理由を同市の経済的地

位、同市がいち早く改革開放都市に指定されたこと、外資系小売企業の進出率の高さ、進出のインパクトをうけ内資系小売企業が急速に伸びたこと、青島市の展開が中国の発展動向を代表するものといえることから説明する。次いで、同規模の沿海都市である大連、先行して発展した上海市と比較し、同市の小売市場の特徴を明らかにした上で、同市の小売業発展の要因をマクロ的観点並びにミクロ的観点から分析し、最後に、改革開放政策が始まった1978年から現代に到るまでの発展を4段階に区分して明らかにしている。

第2章では、同市への外資系小売企業の進出について、まず、参入背景・動機、参入モードを明らかにした上で、92年の参入開始時期から段階を区切ってその参入プロセスを明らかにし、外資系小売業の進出が青島市小売業に与えたインパクトについて詳しく論じている。この章では、外資系小売企業の進出が契機となり青島市小売業の近代化が本格的に始まったこと、また、外資系小売企業の活動が、現地小売業の発展にとって極めて重要な要因となったことが示されている。

第3章では、外資系小売業で成功した代表例としてイオンを取り上げ、進出要因、プロセスを分析し、イオンが現地小売業に与えたインパクトを明らかにしている。ここでは、主として、先進的企業の進出の成功例を検討しモデル化した白モデル、すなわち、優位性をもった革新的業態の導入・標準化、その後の適応化・現地型モデルとしての標準化がなされるという理論モデルを参照として分析を進める。そして、イオンの具体例にそくして考察すると、その成功要因は立地戦略的確性、革新的業態の優位性、柔軟な現地化への対応に求められるとし、白モデルはかなり有効であるが、革新的業態の標準化という過程の際に現地化プロセスが求められる点がこのモデルでは明確にされていないことを明らかにしている。本章では、このように、具体的な企業進出の分析を踏まえた上で、イオンの進出が現地小売業にどのようなインパクトを与えたのかが具体的に明らかにされている。

第4章では、外資系企業の進出から大きな影響を受け、成長した現地企業の代表である利群集団を分析し、その成長プロセスを明らかにし、発展の特徴をまとめている。本章の分析を通じ、典型的なローカル・リテイラーであった現地企業が、外資系企業の進出によってもたらされた影響を受けとめ、多業態化・多店舗化を進めるようになった過程が具体的に明らかになり、青島市小売市場の内資系小売企業が発展するプロセスが鮮やかに示されている。

第5章では、青島市小売市場の進出が失敗に終わった外資系企業の代表例としてテスコを取り上げ、その撤退要因を分析することを通じ、当該市場が近代的経営手法を身につけた小売企業間の激しい競争が繰り広げられる市場へと転化・発展していることを明らかにした。テスコの分析では、撤退について研究を進めてきている鳥羽モデルを参照として考察を進め、撤退要因として立地戦略の不適切さ、商品調達システム構築の失敗、過剰な現地化対応によるマネジメントの失敗、テスコの世界戦略の見なおしにあることを指摘する。こうした検討を通じ、鳥羽モデルの有効性を確認するとともに、それでは説明し得ない要因が具体的に示され、これを補完する論点が提示されている。本章では、このように撤退例の具体的な分析を通じて、外資系企業の進出が始まって10年ほどしか経過していない青島小売市場が、大きく変容し、激しい競争が、高い水準で繰り広げられる市場になったことが明らかにされている。

第6章では、まず、青島市小売業の発展状況を小売企業数、従業員数、売上高の推移から明

らかにし、次いで、外資系企業の進出によって小売構造が変容したことを、現地小売業の経営管理の近代化、小売技術の革新、小売業態の多様化という側面から明らかにし、小売業の構造変化が進んでいることを具体的に明らかにしている。本章の分析によって、青島市の小売業が大きく変容したことが、具体的に示されている。

第7章では、本論文で明確に論じたことを簡潔にまとめた上で、今後の研究の進展の方向性についても言及されている。

以上のように、本論文は、青島市小売市場の社会的歴史的分析、および、外資系小売企業の進出を契機として本格的な近代化が開始され、発展した同市場の分析を丹念に行い、個々の企業の具体的な分析を踏まえた上で、同市場の発展要因を分析した論文である。また、流通市場全体の動向を追うと同時に、具体的な企業の分析を行うことによって同市場の発展過程を具体的に示した内容になっている。

審査結果の要旨

本論文のテーマは中国における流通市場の近代化である。中国経済の現状分析はいうまでもなく今日極めて重要なテーマであるにもかかわらず、流通市場についての研究は少ないという状況の中で、中国の流通市場の近代化を率先して実現してきた青島市小売企業の発展をテーマとしたこと自体に大きな意義がある。また、その分析内容は、個々の企業分析を踏まえることによって、外資系企業の進出がどのような課題を解決したのか、また、解決できなかったのか、そして、現地小売企業がどのように発展してきたかということも踏まえて小売市場の発展を論じたものであり、同市場の発展を立体的に明らかに示すことに成功している。しかも、本論文では、これまでの研究成果に基づきながら、個々の事例分析によって、その理論モデルの限界を明確にし、新たな論点を提示している点にも卓越性があるといえる。

中国の流通市場全体の分析、さらにはこれから発展するであろう途上国の分析には、さらに幅広い研究が求められることになるが、そのような研究の深化の方向性についても本論文で言及されており、論者の研究者の資質が優れていることが示されている。

また、本論文のテーマは経済学固有の分野であり、学位としては博士(経済学)の授与がふさわしいと委員会では判断した。

以上のことから本委員会は本論文が学位(経済学)の学位を授与するに値するものと判断した。